



瀬戸内海・小豆島から世界を変えるための目標

SDGs : 持続可能な開発のための2030年までの国際開発目標

2021年(令和3年)1月1日  
小豆島交通株式会社

## ☆小豆島って？



小豆島は、瀬戸内海国立公園の中心地で、広さはわが国で19番目の島であり、20余の属島を含め、169.86km<sup>2</sup>の面積で2019現在で人口は約2万7千人が住む海に囲まれた離島で。瀬戸内海で2番目に大きな小豆島は、西に向けた“牛”や“犬に見える形で、島の周辺には大小20以上の島が点在しており、瀬戸内海の最高峰星ヶ城817mから西へ峰が続き、美しの原高原777mにまで延び、南側は浸食が進み、傾斜も急で、長年の風雨による浸食の影響で奇峰となり、日本三大渓谷美である寒霞渓の絶景が生み出されました。

歴史は古く、島の水軍利用のために近世に幕府などの直轄地となった言われがあり明治になって香川県に所属、1878年に小豆郡となり、島には44を数えた村が次第に統合され、1957年に土庄町・内海町・池田町の3町で構成されました。その後の2006年には内海町・池田町が合併して小豆島町が発足し、現在は土庄町・小豆島町の2町の行政区に分かれております。

また小豆島の主な産業は、古代から塩が生産されていたことから醤油産業が盛んになり佃煮産業も繁栄し、日本三大そうめんである小豆島手延べそうめん・ごま油・オリーブ栽培・石材が小豆島を代表する産業です。大阪城の石材には、小豆島の石が使用されており【備讃諸島の石の文化の日本遺産第1号】として2019年5月20日に認定されました。

1686年には四国八十八ヶ所の霊場になぞらえて創設した『小豆島八十八ヶ所霊場』の開創し、当時は寺院だけでは数が足りなかったため、新たに堂庵を建立して現在の霊場を定め島の人々は、お遍路さんをお茶やお菓子、甘酒などでお接待して迎え、この“おもてなし”の風習は、今も小豆島に残ります。

最近、3年に1度開催される「瀬戸内国際芸術祭」の開催のきっかけにより世界各国から観光を目当てに小豆島を訪れる方々が増え、また壺井栄が1952年（昭和27年）に発表した「二十四の瞳」1954年が映画化され、その舞台はこの小豆島に存在し、小豆島の観光資源は、ミシュラングリーンジャパンの寒霞渓・二十四の瞳映画村・オリーブ公園・オリーブ園などをはじめ、小豆島の昔からの伝統や文化が体験できる施設が増え、芸術作品も多く点在して、フォトジェニックな小豆島で有名な島です。







## ☆小豆島交通株式会社 概要

社名：小豆島交通株式会社

住所：〒761-4104

香川県小豆郡土庄町甲5873番地10

連絡先：TEL 0879-62-1203 FAX 0879-62-5678

ホームページ：shodoshima-kotu.com

主な事業：一般貸切旅客自動車運送事業

一般乗用旅客自動車運送事業

一般貨物自動車運送事業

第2種国内旅行業

太陽光売電事業

保有車両数：大型バス	： 5台	・小型バス	： 5台
タクシー	： 18台	・ジャンボタクシー	： 2台
貨物トラック	： 6台		



# ☆SDGsって?



• 持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

（外務省サイトより）

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に  
貧困を終わらせる。飢餓を終わらせ、農業を促進。医療福祉の促進。公正な教育確保と生涯学習の促進。男女差別を無くし、女性女児の能力強化、水と衛生の利用と管理確保する目標グループ

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任  
クリーンな近代エネルギーの提供、働きがいと経済成長、産業と技術革新、人と国の平等、エネルギーリサイクルの促進、生産と消費との環境配慮を目指す目標グループ

13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナシップで目標を達成しよう  
気候変動への対策、海洋汚染を防ぎ海洋資源の確保、森林伐採をやめる、平和で公正な世界を目指す目標グループ



# ☆小豆島交通株式会社にとってのSDGs



あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

- ① 従業員の労働時間は適法な手続きにより上限を延長し、できる限り労働時間延長をしないように勤務体制づくりを行っております。
- ② 全社員、法定健康診断を受診し尚且つ、保健師による生活習慣病疾患患者および予備軍の社員への指導を行っております。



ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女子の能力強化を行う。

- ① 当社では、女性が活躍する会社づくりとして親族以外の女性役員および女性管理職、女性運転士が現在も活躍しております。今後も積極的に女性社員を採用継続してまいります。
- ② また、子育て世代の女性社員が働きやすいように、夜間乗務はなく、できる限り家族との時間をとれるように勤務調整しております。



全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。

- ① 節水を励行するために、当社が保有する営業車は、常にワックス掛けを励行し、洗車機の利用をできる限り少なくしております。



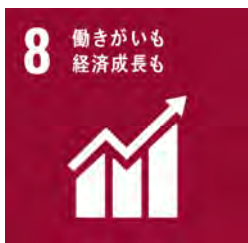
全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。

- ① 当社の事業の一つとして、太陽光発電設備を導入しております。
- ② クールビズ、ウォームビズの推奨  
※受注している業務形態により、ネクタイ着用などの正装の時もあります。
- ③ 当社の営業車は、ハイブリッド車や低燃費車、低排出認定車などの低公害車の導入を積極的にしており、バス・タクシー・トラックの車両入替時には、低公害車を導入しております。  
※平成29年11月22日に四国運輸局長より、低公害車の導入による表彰を受けました。

関連ゴールNo.13



# ☆小豆島交通株式会社にとってのSDGs



包括的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのあるディーセントワークを促進する。

- ① 当社では、定年70歳まで引き上げ「生涯現役」として働けるように定年齢を超えても、医師判断や関係各所による診断を受診結果を助言に基づき、かつ個人の意向にそって、バスやタクシー、トラックなどの営業車の運転士を雇用しております。



強靱(レジリエント) インフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの促進を図る。

- ① 当社では、交流人口に絶大な効果をもつ「瀬戸内国際芸術祭」に寄付協力を行い、地元×観光客との交流を応援しております。
- ② 地域活性化を維持向上するために、地元企業を優先した企業より仕入れを行い、また【小豆島】を全国的または世界に発信し、【小豆島】ブランドのPRに積極的に取り組みます。

関連ゴールNo.1 1



持続可能な生産消費形態を確保する。

- ① 貸し切りバスで車内客席の各席に設置しているエチケット袋は、1運行枚に交換及び廃棄しており、環境保全維持の目的から各席に設置するのを廃止し、バス乗車日に必要な方のみが取る事ができるようにしております。
- ② 使用済み用紙など再利用可能な紙類は、可能な限り再利用しております。
- ③ ゴミの分別は徹底し、リサイクルをしております。

関連ゴールNo.1 2



気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

- ① 当社の営業車は、ハイブリッド車や低燃費車、低排出認定車などの低公害車の導入を積極的に行っており、バス・タクシー・トラックの車両入替時には、低公害車を導入しております。  
※平成29年11月22日に四国運輸局長より、低公害車の導入による表彰を受けました。



## ☆これから取り組んでいきたいSDGs



全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



各国内及び各国間の不平等を是正する。



時速可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を活性化する。



## ☆これからの小豆島交通(株)とSDGs



小豆島交通(株)は、瀬戸内・小豆島で公共交通機関の会社である限り、これからも小豆島の方々のため、小豆島に起こし頂いた方々のために、後世に継げる会社であるとともに、また社員一同が小豆島交通の意義を理解し、地域への役割をもっと理解し、小豆島交通の経済活動を止めることなく積極な雇用と働きやすい、働きがいがある会社づくりを目指して、社員全員がSDGsに積極的に取り組みます。

まずは、今できることを取り組み、今していることを継続して取り組み、これから新たなゴールを増やして、瀬戸内・小豆島からSDGsに取り組んで参ります。

2021年1月1日

小豆島交通株式会社